

# 「新年の挨拶」

今年も新年を迎えることができ、仏縁に感謝致します。平素より寺門護持にご尽力を賜り、誠に有難く感謝申し上げます。

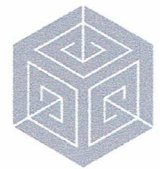
気持ち新たに、皆様のご多幸と良縁、ご健康を祈念致す所存です。

昨年は大変な一年となりましたが、思いうように行かなかつた方におかれましても、今年が良い年になりますよう祈念申し上げます。

今年も皆様にとって良い年になりますよう願いを込めて作成いたしましたのが右になります。



令和3年1月



寺 讚  
恵 心

発行 〒610-0343

京都府京田辺市

大住八河原九

宿谷真治

電話 0774-62-3137

「見跡（けんせき）」という言葉になります。今年の干支は「丑（うし）」です。

禅宗では、禅の境地を表すのに「十牛図」という教えがあります。

十牛図には、ある人が牛を探し、牛を飼い馴らすまでの道のりが十個の絵と一緒に説かれています。

そこに登場する牛は、仏教で言う「課題」、即ち自分の心そのものです。

つまり、自身を見つけて出し、自分自身をコントロールし、その先にはどのような心境があるのかとすることが、十枚の絵と一緒に説かれています。

その中で第二番目にあたるのが、今回の「見跡」です。

十牛図の主人公は、牛を探すところから始まります（第一は尋牛）。

最初は全く牛を見つけないことが出来ませんが、ある日牛がいた跡を見つめます。

すなわち、自分自身をまだ何も見つけていませんが、自分が知る手がかりを見つけることが出来たということになります。その状態が「見跡」です。

コロナにより、私達の行動は制限されるようになりました。

自由が奪われ、出来ることも奪われることは、人生の貴重な時間を奪われることに等しいことと思います。

その為、喪失感を感じて日々を過ぎさざるを得ない方もいらっしゃるでしょう。

しかし、十牛図の主人公は牛を訪ねました。そして牛の跡を見つけることができました。

牛の手がかりを見つけることが出来たということは、次には牛を発見することが出来るでしょう。

牛を発見することが出来れば、牛を捕まえることが出来るようになります。

すなわち、人生における幸運とは跡を発見することではないでしょうか。

では、十牛図に説くところの牛とはどこにいますのでしようか？

答えは、「自分の心の中」です。

心の中には制限をする物も自由を奪う物もあります。

今年が丑年というのも何かの因果かもしれませぬ。

皆様も心の中の牛を探す旅に出られるのも面白いかもしれませぬ。

今年一年、皆様が良い発見をされますことを祈念申し上げます。